

富津市社会教育委員会議会議録

1	会議の名称	平成30年度第2回富津市社会教育委員会議
2	開催日時	平成31年3月12日(火) 午後2時00分～午後3時48分
3	開催場所	富津市役所502会議室
4	審議等事項	報告 (1) 第53回君津地方社会教育推進大会について (2) 第53回千葉県社会教育振興大会について (3) 平成30年度君津地方社会教育委員連絡協議会研修会について (4) 富津市民文化祭2018について (5) 平成31年富津市成人式について (6) その他 ・ 図書室整理等の進捗について 議題 (1) 富津市子どもの読書活動推進計画について
5	出席者名	(社会教育委員) 鹿島順、斎藤啓一、大野泰代、高橋栄二、杉田玲子、森千枝子、磯貝順子、石井喜美子 (事務局) 岡根教育長、笹生教育部長、当真生涯学習課長、渡邊公民館長、伊藤生涯学習課長補佐、檜原主事、市川社会教育指導員、森田社会教育指導員、伊藤社会教育指導員、牧田家庭教育指導員
6	公開又は非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部非公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7	傍聴人数	0 人(定員 5人)
8	所管課	教育部生涯学習課社会教育係 電話 0439-80-1345
9	会議録(発言の内容)	別紙のとおり

第 2 回 富津市社会教育委員会議会会議録

発言者	発言内容
<p>(事務局) 當眞課長</p>	<p>定刻となりましたので、始めさせていただきます。本日は何かとお忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。本日の進行を務めさせていただきます生涯学習課長の當眞です。よろしくお願いいたします。</p> <p>会議に先立ちまして、出欠席の報告をさせていただきます。本日の出席委員は 8 名、欠席委員は 5 名でございます。従いまして 2 分の 1 以上の出席がございますので、社会教育委員会議会運営規則第 3 条第 5 項の規定によりまして、会議は成立いたします。</p> <p>ここで、会議の公開につきまして説明させていただきます。本会議は、富津市情報公開条例第 23 条第 1 項の規定により公開となります。このため、後ほど会議録署名人 2 名を決めていただきたいと思います。また、会議録作成のため、録音させていただきますのでご了承願います。</p> <p>それでは、ただいまから平成 30 年度第 2 回富津市社会教育委員会議会を始めさせていただきます。はじめに、高橋委員長からご挨拶をお願いいたします。</p>
<p>高橋委員長</p>	<p>こんにちは。お忙しい中ありがとうございます。先週あたりが中学校の卒業式、今週は小学校だろうと思います。そんな中でございます。</p> <p>今日、議題になっています「子どもの読書活動推進計画」は、</p>

	<p>足掛け3年だと思いますが、2月2日にも臨時会議を開きました折には色々ご意見いただきましてありがとうございます。そんなわけで、やっていきたいと思えます。</p> <p>また、今日が今期の最後の委員の日でございますが、みなさんには本当にお世話になりましたことお礼を申し上げて始めたいと思えます。よろしくお願ひします。</p>
<p>(事務局) 當眞課長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>続きまして、岡根教育長から挨拶申し上げます。</p>
<p>(事務局) 岡根教育長</p>	<p>改めまして、みなさんこんにちは。委員長が簡潔なご挨拶をした後で、どんな話をしようかと色々考えてきたんですけれども、少しお話をさせていただきたいと思えます。</p> <p>時候の挨拶は、今、高橋委員長がしましたので、本当に春めいて素晴らしい季節が来ていますけれども、お集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>読書につきましては、今、3年かかってという話がありましたけれども、私が教育長になって何年か過ぎていく中で、子どもたちが文章問題に対する回答率が非常に少ないということがあって、やはり書く力が必要だろうということを教育センターが進めていく中で、やはり読み取る力が劣ってきているという、新井紀子さんというAIのロボットで東大が受かるか受からないかというのをやっていた研究者がいて、その方が研究する中で見ていると、中学生・高校生が教科書を読めていない、答え</p>

が書いてあるような問題文すら解けないということで、やはり読解力が弱いということが書かれていまして、再度、読書についても少しやっていく必要があるのかなということを痛感しました。ただ新井さんは、多読が即、読解力向上になるとは限りませんという答えをしているんですけども、今日の資料にありますように川島隆太さんという東北大学の人のデータによれば、1日30分程度の読書をすることによって、学習するとかしないとか関係なく学力が上がってきているというデータがあるんです、というようなことをデータの中で証明されています。では、どうしたら子どもたちが本を読むようになるのかということで、それこそボランティアで読み聞かせをしていただけるようなこととか、今日もお話のあるブックスタート事業とかさまざまなものがあると思いますけれども、学校の中でどうなんだろうかということやはり図書室が遠い、図書室にある本が古い等のさまざまな要因があって、これをどうにかしなければいけないということで、今日校長先生も見えておりますけれども、子どもの近くにまず本を置いて、そして先生方が啓発をしていただいて、その中で子どもたちに読む習慣が少しでも身につけることを頼んでいきたいということでやってきてます。まだ道半ばですので、もう少しデータを集めたいと思いますけれども、少しずつ改善はされてきているのかなというふうに思います。図書館の無い富津市ですけど、じゃあどのように子どもたちが本を読むようにするのかということの工夫をしていかなければならないというふうに思ってますので、またお知恵を拝借でき

ればなと思っています。

2つめは、社会福祉の関係だと思えますけれども、社会教育としてどうかというのもあるんですけれども、私、富津のさまざまな自然環境とか産業とか素晴らしいポテンシャルがあるんですけど、やはり大人たちが子どもたちをどう育むかというところを、再度市民運動ではないですけれども、何かそういうものを展開できればなということで、「あったかふつつ」という言葉があつてみなさんご存じでしょうか。富津はあたたかいですよという意味ですと気候が暖かいということもあるんでしょうけれども、人もあたたかいんですよということで、そういう市民運動のようなものができればいいのかなということで、「あったかふつつ標語」みたいなものを社会福祉協議会の方に頼んで少し挙げてもらって、それを子どもたちにその標語を書いてもらって、それを公共施設に貼っていったら少しずつ「あったかふつつ」が浸透するのかなと、富津は人があたたかいところですよというところを少しアピールをしていきたいなと。また、それによって市民のみなさんにも啓発していきたいなというものがあります。社会教育とは少し違うんでしょうけれども、そういう社会福祉的な運動も必要かなということを感じています。市長も市役所職員にむけてですが、「笑顔と挨拶あったかふつつ」というのを標語にして、大貫小学校の校長先生が今日いらっしゃっているんですけれども、大貫小学校に頼んだら素晴らしい字で2名ほど書いてくださったので、それを近々市役所に貼っていきたいと思っていますけれども、そういうような運

動をしながら子どもたちにも、また大人の人たちにもふっつ
のよさを少し啓発していければと思います。

最後になりますけど、先だってある方からの講演を聞いた時
に、これからはもう 100 歳時代が来るだろうと言われている中
で、やはりリカレント教育じゃないけれども、再度学び直しし
てまた社会に入っていくという人たちが増えてくる。今、企業
等でも 40 代、50 代の人たちに大学に行かせたりして、次の人
生を歩むだけの能力を育てていこうということがありますけれ
ども、ある意味社会教育の中でこれからシルバー世代に入って
いく人たちも含めて、何かそういう社会貢献ができる学習機会
というのが必要だななんて思っています。そして、その人たち
ができればちょっとした稼ぎになるような仕事に就けると励み
にもなるし、稼ぎにもなるし、健康生活にもできるだろうとい
うことで、社会教育の中で少しまたいい知恵があったら教えて
いただければなということを少し考えております。

長くなりましたけれども、今日は慎重審議をお願いしたいと
思います。どうぞよろしく申し上げます。

(事務局)

ありがとうございました。

當眞課長

これより、議事の進行につきましては、社会教育委員会議運
営規則第 3 条第 4 項の規定によりまして、高橋委員長より進め
ていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(議長) 高橋委員長	はい。よろしく申し上げます。
	それでは、会議次第3にあります議事録署名人の指名についてですが、私から指名するということによろしいでしょうか。
各委員	異議なし。
(議長) 高橋委員長	では、ご異議のないようですので、石井委員と森委員にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。
各委員	異議なし。
(議長) 高橋委員長	ということで、石井委員と森委員に決定いたしました。 それでは、報告に入ります。各事業に参加した委員のみなさまから参加報告をお願いしたいと思います。はじめに、(1)第53回君津地方社会教育推進大会について、磯貝委員から報告をお願いします。
磯貝委員	それでは、君津地方社会教育推進大会について報告いたします。
	7月14日 土曜日、第53回君津地方社会教育推進大会が富津公民館で開催されました。今年度は、富津市が中心となって計画されまして、385名の参加者で盛大に開催されました。富津市からは、社会教育委員8名が参加したほか、社会教育指導員・家庭教育指導員、小中学校PTA、社会教育団体及び職員等、

94名が参加いたしました。

表彰状の贈呈では、富津市からは、個人の部で公民館運営審議会委員の山中晴一さんと渡辺早苗さんの2名が社会教育振興への功績を認められ表彰されました。また、本大会を共催している新日鐵住金株式会社君津製鐵所が社会貢献賞として制定する、クローバー賞の表彰が5団体に対して行われ、富津市からは鋸山の採石産業の歴史文化を再確認する作業を続け、地域活性化を目指す「金谷ストーンコミュニティー」が受賞しました。

式典終了後の記念講演では、株式会社千葉日報社の伊澤敏和氏を講師に招き、「まだまだ見つかる地元の宝 ～いつもの風景から魅力を再発見～」と題した講演が行われました。

伊澤氏は、千葉日報社編集局政経部で県政を担当されたあと、千葉県選出の野田首相誕生の折には、社として初めての東京駐在記者となりました。地方部では、震災前後の地域に寄り添いながら、柏レイソルや千葉ジェッツの取材で運動部の援助をするなど多方面でご活躍され、現在は社会部の部長として紙面全体の構成に関わられているほか、論説委員としても執筆されています。

市原市の生まれで、木更津高校ご出身と、この地域にご縁のある伊澤氏は、記者・デスクとして手がけた記事を題材に、「見慣れた普段の風景も、見方を変えると『面白さ』が浮かび上がる」、「子どもと大人の視点の違いをたのしむ」、「スポーツを柱にした街づくり」、「参加を呼び掛け続ける努力と、参加したくなるような工夫を」等、自分たちの活動に生かせるような数々

	<p>の「見出し」をご提示いただきました。</p> <p>活字と写真で記事という作品をつくるというお仕事柄もあってか、淡々とした印象でしたが、「きっかけがあれば、見慣れたものへの光の当て方についてうかがいながら、人をひきつけるような見出しや小見出しの言葉の選び方等について質問したかった」という委員もいました。</p> <p>記念講演終了後、大会決議文が参加者全員賛成のもと採択され、平成最後の大会が閉会となりました。31年度・新元号での第1回目も、引き続き、富津市が開催市となりますので、事務局の更なる尽力と委員の皆様のご協力をお願いして、報告を終わります。</p>
<p>(議長) 高橋委員長</p>	<p>はい。磯貝委員の報告が終わりました。委員のみなさんからご質問等はございますでしょうか。</p> <p>特にないようですので、次の報告に移りたいと思います。(2) 第53回千葉県社会教育振興大会について、杉田副委員長から報告をお願いします。</p>
<p>杉田副委員長</p>	<p>それでは、千葉県社会教育振興大会について報告いたします。</p> <p>11月8日木曜日、第53回千葉県社会教育振興大会が、千葉県総合教育センターで開催されました。富津市は社会教育委員から、高橋委員長、磯貝委員と私の3名、事務局から當眞課長、伊藤課長補佐と檜原主事の3名、あわせて6名が参加しました。</p> <p>「人づくり・地域づくり・絆づくり」をテーマに、午前は表</p>

彰式等の開会行事に基調講演があり、午後は3市の事例発表のあと、3つの分科会での語り合いの時間が持たれ、最後に大会決議文を採択して閉会、という内容でした。

基調講演では、文教大学学園理事長 野島正也 氏の「人生100年時代に向けた社会教育の課題」と題するお話がありました。1980年に全国で千人弱だった100歳以上の高齢者は、今や7万人近くに達し、30年後には50万人を超えると推計されているそうで、つい最近まで「人生80年といわれる今日…」だった決まり文句が、「人生100年時代を見据えて…」に変わり、今は100歳で何をやっているかが語られるようになったのだということです。そんな“「人生100年時代」の生涯学習”の視点として、高齢者は社会から支えられる存在ではなく、地域が抱える課題を解決する「地域社会の主役」であって、ボランティアや出来ることなど、いくらでも役割を見つけられるということを挙げられました。その鍵は、子どもたちが夢に向かって頑張ることができる社会や、いくつになっても学び直しができ、新しいことにチャレンジできる社会にあるといます。そのための具体的な方法として、公民館等の社会教育事業を身近な存在にして、公民館や福祉施設、学校等の地域活動への参加を促す。そして、地域協働の鍵は、社会教育関係者が繋がることの「よさ」を住民等の相手に説明できるかどうかだと語られるなど、豊富な内容で、1時間では短く感じました。

午後の事例発表では、まず市川市教育委員会の学校地域連携推進課職員が、「市川版コミュニティ・スクール（学校運営協議

会制度)」について紹介されました。

市川市では、『学校運営協議会』を～本音で話せる友人～である「学校にある最強の応援団」と表現して、『地域学校協働本部』を～社会総がかりでの教育を実現～する「地域にある学校応援団」と表現して、バスの前輪・後輪にたとえながら、よりよい方向へ力強く前進するイメージを描いて、来年度には、市立の各幼稚園・小中学校・義務教育学校・特別支援学校（6園・55校）すべてでコミュニティ・スクールを導入するということです。

続いて、「我孫子市なぎなた連盟の活動と実績」と題した連盟理事長からの発表では、幼稚園や中学校での地域に根差した活動や、県・国の大会等で幅広く活躍する事例が紹介されました。なぎなた道を通して武道の精神と体力の向上を培いながら、地域スポーツとしてのなぎなたの普及・発展を目指す姿が示されました。

3番目の成田市青少年相談員連絡協議会の活動についての、会長と生涯学習課職員の発表では、主な事業である、中学生を対象とする「オールナイトハイク」と小学生対象の「綱引き大会」の様子が映像で紹介されました。特に練習段階から担当地区の児童と関わり、熱狂的な大会となる綱引き大会の様子が印象的でした。

分科会では、「学校・家庭・地域の連携と社会教育」、「福祉教育と社会教育」、「未来の地域づくりと社会教育」の3つのテーマに分かれて行われ、各地の委員と語り合いの時間がもたれま

<p>(議長) 高橋委員長</p>	<p>した。</p> <p>以上で、千葉県社会教育振興大会の報告を終わります。</p> <p>はい。杉田副委員長からの報告が終わりました。委員のみなさまからご質問等はございますでしょうか。</p> <p>特にご質問等はないようでございます。次の報告に移ります。</p> <p>(3) 君津地方社会教育委員連絡協議会研修会については、私から報告させていただきます。</p> <p>平成30年度君津地方社会教育委員連絡協議会研修会についてご報告いたします。</p> <p>今年度から当番となる袖ヶ浦市が企画して、1月24日木曜日に袖ヶ浦市民会館で実施されました。参加者数は全体で27名、富津市からの参加者は、社会教育委員が杉田副委員長、鹿島委員、宮内委員、森委員、そして私の5名。事務局から當眞課長、伊藤課長補佐の2名。合わせて7名が参加しました。</p> <p>印旛郡栄町の元教育委員で現在は、地縁法人酒直台自治会副会長の福本朋子氏を講師に迎え、「SDGs(持続可能な開発目標)に向けて」～地域とのつながりのありがたさ～をテーマに講演が行われました。千葉県北部中央、成田市と印西市に囲まれた栄町は、現在の人口は2万人余り、65歳以上の割合が35パーセントを超え、当市同様、人口減少・高齢化が進んでいるそうです。講師の住んでいる酒直台自治会は地縁法人化して今年で13年目で、地縁法人化する前の加入率は100パーセント近かったが、加入しない権利も認めたため、現在の加入率は80</p>
-----------------------	---

パーセント程度だそうです。

平成 26 年～28 年に千葉県地域福祉フォーラム支援事業に参加して、防災マップを作成したり、防災士を招いた講演会や地域の多くの人に参加できるイベントを開催してきたそうで、イベントを通して笑顔が広がり、元気になれ、地域のつながりを深めることができたそうですが、自治会活動に関わってきて見えてきた課題は、立候補制の役員選出の大変さと、その要員でもある高齢化問題です。

そこで「何のため」に、「誰のため」に自治会活動をするのか、と考えたときに目にとまったのが、2015 年に国連で採択された S D G s（持続可能な開発目標）であったということです。

S D G s とは、地球上に暮らす人々が、誰一人とりこぼされることなく、より幸せに生活していけるように、世界中の国が合意した、世界を変えるための 17 個の目標です。2030 年という目標年に向けて、国・行政・企業・個人がそれぞれできることを考えて実行していこうというものです。自治会の新たな指針に S D G s を採用し、自治会での取り組みを S D G s の目標に当てはめてみることで、講師は、今までやってきたことが決して無駄ではなく、意味のあることなのだと思うようになったと言います。

最後に、地域福祉は、自分自身で生活を支える「自助」、地域で住民同士が支えあう「共助」、行政や社会福祉協議会などが住民を支援する「公助」の 3 つで成り立っているとされますが、そこに新たな視点として S D G s を取り入れることで、私たち

一人一人が地球市民として社会の中で生きていると実感し、やりがいや、生きる力につながるのでは…ただし、無理なく楽しくを忘れずに！と結ばれました。

その後、5人ずつのグループに分かれ、「助け合い体験ゲーム」というワークショップが行われました。これは、「さわやか福祉財団」が作成した、正確には「助けられ上手・助け上手体験ゲーム」というもので、それぞれが助けてもらいたい内容のカードを5枚ずつ選び、順番に提示しながら、助けてくれるという人に渡してお願いする、というゲームです。その人の知らなかった得意分野や不得手な部分を知ることができ、近所の困りごとに対応して住民同士が支え合う「共助」の疑似体験ができました。カードをたくさん集めた「助け上手」がすばらしいことはもちろんですが、実生活では「助けられ上手」になる勇気も時に必要だと思いました。

以上で、君津地方研修会の報告を終わります。

この報告にご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。いかがでしょうか。

特にないようなので、次の報告に移りたいと思います。それでは（４）富津市民文化祭 2018 について、渡邊公民館長から報告をお願いします。

(事務局)
渡邊館長

それでは、富津市民文化祭 2018 について、ご報告いたします。
富津市民文化祭 2018 は、11月2日 金曜日から 11月4日 日曜日までの3日間、総合社会体育館・富津公民館・中央公民館・

市民会館の4会場で開催いたしました。

市民文化祭のポスターにつきましては、市内小中学校から70点の応募があり、その中から富津中学校2年 平野 笑理さんの作品が最優秀作品としてポスターに採用されました。

また、メインテーマは、市内中学校、231点の応募があり、その中から最優秀作品として、富津中学校2年 平野 和磨さんの「人と人 文化でつなぐ 富津の輪」が採用されました。

文化祭全体の出演・出展者数は3,389人、展示部門作品数は2,940点、芸能部門・催し部門の曲数は146曲、子どもまつり部門の種目43種目で、日ごろの活動成果による作品または芸能発表等が活発に行われました。

参観者数は、全体で14,271人で、今年度は、開催日を4日から3日に変更したことや、旧市役所第2庁舎解体工事により市民会館が展示のみであったことなどから、前年度より4,003人少ない参観者でございました。

また、期間中に各会場においてアンケートを実施し、総合社会体育館では76件の回答がありました。アンケート結果から、参観者は市内の方が74パーセント、市外の方が26パーセントで、どの作品も素晴らしい、心がほっこりするなどのご意見を頂きました。展示に対する高い評価が目立ちましたが、その一方で作品数の減少の指摘やマンネリ化しているなどのご意見もございました。

以上で、富津市民文化祭2018についてのご報告を終わります。

<p>(議長) 高橋委員長</p>	<p>はい。渡邊公民館長からの報告が終わりました。委員のみなさんからご質問等はございますでしょうか。</p> <p>特にはないようです。次の報告に移ります。(5)平成31年成人式についても公民館事業ですので、続けて渡邊公民館長から報告をお願いします。</p>
<p>(事務局) 渡邊館長</p>	<p>それでは、(5)平成31年成人式について、ご報告いたします。</p> <p>平成31年成人式は、1月13日 日曜日午後2時から富津公民館において開催されました。当日は、社会教育委員のみなさまにも、新成人の門出をお祝いしていただき誠にありがとうございました。</p> <p>新成人の対象者は、平成10年4月2日から平成11年4月1日までに生まれた市内居住者及び市外転出者437名。出席者は、322名。出席率は73.68パーセントでありました。</p> <p>今年度は、市内各中学校5校から選出されました10名の方が成人式実行委員会を立ち上げ、実行委員が式典の企画運営を行いました。実行委員会では、式典内容や記念行事について、何度も会議を重ね、スライドショーやインタビュー形式の新成人一問一答、全員による合唱等の工夫をこらした式典となりました。</p> <p>こうして例年にないほど厳粛な中にも温かみのある式典でありました。その後、地区別の記念撮影が行われました。</p> <p>以上で、平成31年成人式についてのご報告を終わります。</p>

<p>(議長) 高橋委員長</p>	<p>はい。渡邊公民館長からのご報告が終わりました。委員のみなさまからご質問等ございますでしょうか。</p> <p>特にないようですので、(6) その他ですが、まず、図書室整理等の進捗について事務局から報告をお願いします。</p>
<p>(事務局) 伊藤課長補佐</p>	<p>それでは、図書室整理等の進捗について、報告申し上げます。</p> <p>昨年度の第2回会議でそれまでの当該業務についての発表を行いましたけども、今回、「子どもの読書活動推進計画(案)」の巻末の方に付記としてまとめておりますので、そこをご覧いただきながら説明させていただきます。</p> <p>(以下、「富津市子どもの読書活動推進計画(案)」の付記活動事例を説明)</p>
<p>(議長) 高橋委員長</p>	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>意見があればお願いいたします。</p>
<p>杉田副委員長</p>	<p>はい。1つよろしいでしょうか。</p>
<p>(議長) 高橋委員長</p>	<p>はい。杉田副委員長</p>
<p>杉田副委員長</p>	<p>座ったままでよろしいでしょうか。すみません。</p> <p>私、今まで公民館に対しても、市内の3館に対してもイメージ的に温度差があるとか、私だけではなく、周りの方からも多</p>

くそのような声がありました。例えば簡単なこと、あいさつの言葉が飛び交っている館と、それから言葉が少なくて暗いイメージだったり随分何年か前にそのような言葉を耳にしたりしました。この場でもそのような発言をさせていただいた記憶はありますが、今回は職員の方たちがとてもプロデュース・連携を上手にしてくださって、コーディネーターに撤してくださったと思っています。やはり生涯学習課の思いだったり発想だったり現場の各公民館の職員の方たちの動きなどを、どうなんだろうと私は当初そのように不安なところを持ち合わせていたのですが、活動や時間が進んでいく中で、どんどん連携の輪というか熱の高まりと一緒に熱くなっていくのを肌感覚で感じられることができるとても有り難かったのも、マイナス方向のことばかり申し上げるんじゃなくて、感謝の言葉もこの場で述べておきたいなと思います。ありがとうございました。

(議長)

ご意見ですね。

高橋委員長

杉田副委員長

はい。いいことも言っておかないとと思ひまして。どうもありがとうございました。お疲れさまです。

(議長)

他になければ、報告は終わりにしますが、よろしいでしょうか。

高橋委員長

各委員	はい。
(議長) 高橋委員長	<p>それでは、議題に移りたいと思います。議事にあります議題</p> <p>(1) 富津市子どもの読書活動推進計画について、事務局から説明をお願いします。</p>
(事務局) 伊藤課長補佐	<p>それでは、富津市子どもの読書活動推進計画について、最初から開いていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>これは足かけ3年、みなさま方に協議していただきました。今年度の初めにも協議していただきましたが、私個人といたしましては、今年度の初めに実は決定と思ったところなのですが、お話をうかがい、ご意見をいただくと、なるほどというところばかりで、高橋委員長からも、もう1度やってみてくださいというお話だったので、やらせていただきました。それを経て、先ほどありましたとおりの2月2日に臨時会がございました。臨時会の時もかなり貴重なご意見をいただきました。それを反映させたものが、今お手元に配られているものとなっております。構成といたしましては、最初に、なぜこれを作らなければいけないのかといったことがございます。</p> <p>簡潔に見るために、29ページをご覧頂いてよろしいでしょうか。やはり冒頭、岡根教育長からもございましたとおりの、読む力や書く力ということが教育の根本になっているところを国は重く見ておりまして、子どもの読書活動の推進に関する法律というのを平成13年度に制定されました。それだけ読書離</p>

れが深刻になっているという認識からです。それを基に翌年の平成14年8月には、実際にどのように推進していくかという計画を立てております。それを受けて、県も翌年に子どもの読書活動の推進計画を策定しています。それを基に市町村はということになるわけですが、市町村はできる限り策定してくださいということで、順次都市部の方から策定しているわけでありませう。そして、最新の国の計画は第4次、今年度の頭にリリースされています。それが反映された県の計画は、策定の背景というところに書かれています。4ページにいきまして、計画の基本方針として、この計画の基本方針としては、1番、子どもが読書に興味を持つ機会の提供、2番、子どもの読書活動の啓発・普及、3番、子どもがより多くの本を読むための環境整備ということについて計画を立てていますということです。そして、4番でこの計画について、対象年齢は18歳以下の全ての子ども、計画期間は平成30年度も含めて概ね5年間とします。本計画は、富津市社会教育委員会議で審議・立案いたしました。今後も、定期的な計画の進行管理評価や見直しを行いますと書いています。ですから、3年間に及ぶ審議をいただいて、非常に色々なご意見をいただいた、それ以前にも自主研修等で積み重ねたご意見の積み重ねがあって、それでこのような計画に成り立っているということをなんとシンプルにその一文だけで表現しています。この一文が逆に重みがあると考えました。

第2章の中を見ていきますと、ここもみなさま方の意見が色濃く出ております。やはり、機会の提供の中で1番初めに我々

がやっていることが、ブックスタート事業なんですけど、これを全部ひとまとめに書いていたものを、取組についてをまず書いて、それからボランティアをどのようにしているんだということと、富津市独自にやっているのだからそれをちゃんと書いた方がいいんじゃないですかと、会場の様子を書いた方がこれからボランティアをやりたいという気になってくれる人もいないんじゃないですかというご意見があったので、それぞれ、細かくさせていただきました。特に、3番目の健康づくり課が行っているこの5階の会議室ですね、この部屋のパーテーション・仕切りを取り払って、2部屋続きになったところで、20組の親子がゴザをしいて車座になってやっているという様子、他の自治体ですと、保健センターがあつたり、図書館があつて、そこからわざわざ行ったりとか、逆に図書館にこの子たちがこの健診が終わった後に図書館側に行かなければいけなかったりと、そういったこともある中で、なんとこの部屋の中で全てできてしまうという、無いからできるということがあるんだなということがよかったんじゃないかなと思ったくらいですね。ということが書かれています。保健師のお話を聞いた後で、栄養士のお話があつて、社会福祉協議会の案内、子育て支援課の案内があつて、それが終わった後、その場で保健師の個別面談に移ります。そこで、誰も相手をしていない親子の所にエプロン姿のボランティアが入って本の紹介と読み聞かせを実践してみる。5冊ある本の中から好きなものを選んで、1冊お持ちになっていただくことで、今まで本に興味無かった方も、とりあえずコミ

ユニケーションの道具として絵本を手にすることができるし、そのままどこかに行って買わなければいけないわけでもないの
で、とりあえずお家でその子のものが出来るということで、こ
のブックスタートの目的を 100 パーセント達成できたわけ
です。

2 番のボランティアについても書いてありますけれども、募
集のための講座とスキルアップのための講座というのを、昨日
から第 2 回目が始まりました。第 1 回目は、2 年前の 1 月にま
だ予算化される前だったので、とりあえず絵本は配れなくても、
読み聞かせだけでもやらなきゃということで始めたんですが、
市長の公約もあってすぐ予算化されて、翌年度には絵本を配れ
るようになりました。それで私なんかはこれで木更津市超えが
できました、記念すべき日ですと声を大にして言ったんですけ
れども、木更津市はやはり富津に負けたと、これはあつてはい
けないことだということで、来年度からすぐ実施されるそう
です。ただ、それで昨日の講習会に木更津市の図書館の職員が 3
名ほどいらっしやいまして、一緒に聴講されていて、もう追
いつきましたとおっしゃっていました。でも、こちらは言いま
せんでしたが、木更津市は職員が読み聞かせをされるそう
です。だから、肝心の市民ボランティアというところが抜けて
いるので、やはりこの事業に関しては先をいっているなと思
います。市民の力は素晴らしいと思います。

そして、(2)ですね。公民館・学校・保育所等での読み聞
かせボランティアの養成ということですが、これも従来からやっ

ていることです。

ここから先の表記のしかたですけれども、これから年号が変わりますので、下から4行目に平成28(2016)年度と、本文ではこのように西暦表記の併記をしていきます。表の方は次のページをめくっていただいて、読み聞かせボランティア活用学校数という現状と目標の欄ですけれども、ここは西暦表記のみとさせていただきます。

このような読み聞かせボランティア、ブックスタートだけではなく、そこから幼年期・未就学児とか学校へ行ってもそうですし、読み聞かせはずっと続けていく必要があるというところで、それを支えるみなさま方の養成とそれからその活動をこれからもサポートしていきますということです。今まで中央公民館や市民会館でやってきたこと、その講座を受けていた方々を中心に各公民館・市民会館でやっているサークルの方々の活躍というのがございます。今年度から、最後の富津公民館でも読み聞かせのボランティア養成講座が始まりました。これで数年後には、サークルが富津公民館を中心にも活躍されることだと思います。

次の2の子ども読書活動の啓発・普及というところですね。中段の富津市では、「読むこと」・「書くこと」を教育の重点にしています。教育長の言葉にあったとおりです。これのなぜそうなのかというところをその上に付け足してみました。それから、学習と人格形成の基礎となる「読むこと」・「書くこと」の説明文を入れさせていただきました。ここは学校での活用と「子ども

も読書の日」における取組、広報ふつつ・ホームページ・教育かわら版・生涯学習情報提供誌による情報発信というところですね。後、変更点としては、10ページの②の国語及び総合的学習の授業における図書館活用とあります。これは、その時の年度で97パーセントの活用なので、100パーセントにしますというような文があったのですが、これは年度によって違ったりするので、全て活用しているという扱いにしておりますので、目標値は省きました。

12ページにいきます。環境整備です。子どもがより多くの本を読むための環境整備です。ここもご意見をいただきまして、章立てを変えています。どのように変えたかと申しますと、(1)公共図書施設の整備というところと16ページの(2)学校図書館の整備、この項目立ては変わらないのですが、3つ目は18ページ、元々家庭教育の重要性・大切さのような言葉があったんですけれども、そこを連携と支援に変えました。公共施設とあって、学校図書とあって、そうしたらそれらの連携とそれから家庭教育を含めた周知なんじゃないですかというご意見があったもので、周知も含めた支援と変えさせていただきました。少し戻っていただいて12ページ、公共図書施設の1番目に移動図書館を持ってきています。普通であったら図書館じゃないのかという話なんですけれども、富津市の図書館といえば移動図書館ということで、これは千葉県公共図書館協会60周年記念ポスターをご覧になった方もいるかもしれませんが、その中で図書館のないところは公民館を載せたりしていましたが、富津市

は移動図書館、かわいい顔のついた移動図書館が載っています。それが、情けないねという声も聞こえてくるかもしれませんが、今現状はこうですというところで特に載せています。ですから、図書館の論が初めにあって、図書館などの読書施設から遠いところには、移動図書館ですよというところから始まってしましますが、そのようにさせていただきます。

そして、学校等への巡回ということで、13 ページの上の方で去年の段階だと、まだ学校の休み時間等ではない時間に回っちゃうので利用しづらいですということを書いておいたところ、委員さんからそれは由々しき問題ですとご指摘があったので、ちょうどスケジュール変更の時期でもあったので、学校の休み時間を中心にスケジュールを組み立て直させていただきました。ここには書いてありませんけれども、後ほどご確認いただきたいと思います。かなりその代わり司書とドライバーにとっては、毎回まんべんなく地域を回るようなスケジュールになっていて、隙がないなというところなんです。これ以上の細かい巡回であるならば、毎日回るしかなくなってしまうかなとか入れ替えが必要かなという状態までいってます。…というところまでは努力してございます。

この公民館図書室についての記述は大体変わりませんが、14 ページの②で、障がいのある方の情報はどうですかというご意見があったので、石井委員だったと思いますけれども、その情報を載せさせていただきました。当市では、富津公民館は、スロープが付いていて1階なので車椅子で利用されている方がい

るんですね。高いところの本なんかはやはり遠慮なくおっしゃっていただきたいし、そうでなくても、予約リクエストカードに読みたい本を書いていただければ、少しお時間いただきますけれども、後日、事務所へ届けておくことができます。これを利用されるとこんなことができますよという点は一応載せております。それから、視力の弱い方のためには、活字の大きなものがあったりします。少し年配者向けですが。最後に、デジターデータとか点字だとか視覚障害の方が見られるような、享受できるような読書のサービスが「サピエ図書館」というところで、集中的に活用を促しておりますので、そこらへんのご案内を載せています。富津市は図書館ではないので加入はしていませんのですが、近隣ですと県の中央図書館がエリアですので、そこがいいかと思えますけれども、近隣の図書館も意識が高く、会費を払って会員になっている場合がございますので、そこを通して個人会員になることもできるかと思えます。そうすれば全国どこに行ってもダウンロードができるそうです。

そして、次のページ 15 ページですが、団体貸出の実施と図書施設のネットワーク化を新たに設けました。団体貸出は特に知らない学校の方が多いですけれども、これは校長会等でよく生涯学習課長から紹介してもらっているのですが、2週間ではなく、1ヶ月程度 60冊ほどであればまとめて貸してもらうことができます。例えば、今度修学旅行に行くんだけども京都に関連する本をまとめて 60冊お願いしますと言えば県で集めてくれます。能に関してないのかとかあれば、そのような感じで集

めてくれます。ということもこれからまたPRしていこうと思います。

そして、平成23年度にやっとバーコード化になり、1回の貸出上限が3冊から6冊まで増えたのですが、それはそれぞれの施設のシステムだったので、蔵書の検索などはできなかったのですが、何十年もの希望がとおりました、一応それがネットワーク化できることになっています。この3月の議会が終われば予算が決定いたしますので、来年度は後半からですが、システムが導入されることにほぼなっております。その中身について、また詳細を練り上げながら7月頃から準備に入ると考えております。

次のページです。学校図書館の整備。ここはほぼ変わらずにそのままきていますが、学校図書システムについて新たな展開がございまして、学校の図書システムも同じようにバーコードが貼付されてパソコンによる貸出ができるようになっていたんですけれども、そこに書きましたとおり中規模校でしかあまり活用がないということがありました。そこで、パソコンのリース期間も終了するということで、それを引き上げることになったわけですね。その原因となっているのは、やはり貸出だけのコンピューター管理ではどうもあまりよくないんじゃないかとか、どんな資料があるかという検索ですとか、それから子どもたちですからどんな本をどれだけ読んだのかというようなデータも、例えば読書量チャンピオンとかそのようなこともやりたいでしょうし、そういうことで活用できないシステムではち

よっと学校ではやはり無理だろうなというところでは。なので、そういったシステムも導入できるように、市のこちら側のシステムがそこらへんまで拡張できて、学校の方につながることであればなということも視野に検討を図っていきたいなということが書かれています。本当にこんなことを書いてしまって大丈夫なのかと今朝も岡根教育長から念を押されましたけれども、「視野に……図ります」ですから大丈夫じゃないですかと、（しかし）本当にやってみようとして頑張りたいですと申し上げたところです。検討してまいりますだけではなくて、やはりこれから本当にやってみようというようじゃないと計画にならないのではないかと考えたので、…前向きに……當眞生涯学習課長にかかっているところです。

それでは、次にいきたいと思います。連携と支援のところですね。学校の中に公共図書施設との連携とか、地域ボランティアの活用とかこの中にあったんですけども、もうこれは学校だけではなく、双方からの生涯学習課方面からの支援も必要だろうということで、あえてこの項目を設けてこちらにしました。特に地域とかボランティアとかいうことになると他のメニューでもそうですけれども、生涯学習課が主管課とされる場合が多いものですから、自覚する意味でもあえてこのようにしております。そして、ボランティアの大切さについては然ることながら、その③の読み聞かせの効用の周知は岡根教育長からもありました。「この本どうだ。読んでみる。」と言われた本がこれだったので、何か活かさないかと言われたので、それで読み

ました。そうしたらやはりこのような端的な正確な研究データというのはあまり見ることができなくて、これは富津市民に出してしまった方がいいのではないかと、こんな計画に具体的な本の名前なんか出していいのかなどを伺う前に、これは出しちゃった方がいいと思ひまして出させていただきました。みなさんのご異論が無ければこのままいきたいなところではあります。本当に学習時間の長短とかそういうことに拘わらず、読まないと伸びないというデータがありまして、どっちが先なのかという問題もあるんですけども、1日1～2時間本を読んでいる子が一番高かったことは高かったのですが、30分～1時間というのはその次で、10分～30分でも中々のものだったんですね。ということはまとめると、10分以上本を読むことが必要だということになるので、その程度であったらまあ習慣づくことだっていいのではないのかなと思います。後、読み聞かせが素晴らしいのは何かというところが脳科学の成果を反映して書かれていたんですね。それがやはりコミュニケーションの脳が働くということで、読み聞かせをしている大人の脳にも、大人の成長や安定をもたらしているということですね。かねがね私言っておりますけれども、人間は他の生物から見ると子どものまま成熟してそのまま死んでいく珍しい生物で、その1つの特徴が何歳まででも変容するという特質があるんですけども。それも1つの形だと思いますね。ボランティアのみなさんもそれを十分に感じながら、ボランティアの活動を勤しんでいるのではないかと思います。読み聞かせに限ったことではない

んですけれども、人に何かをして何かをされることの相互作用というものは、やはり大切だなということで生涯学習課はこれからも（そのことを）中心に活動していきたいなと思っているところです。

4番目に切れ目のない家庭教育支援。生まれる前から成長するまで、ちょっと離れて申し訳ございません。子ども・若者支援という言葉があります。子ども・若者という言葉が文科省にあるんです。子ども・子育てというのが、子育て支援部門で未就学児を中心とするものがあって、子ども・子育て会議が富津市にもございますが、それが生まれてから概ね小学生くらいまでが対象だったりするんです。それでその後は、教育部がということで、教育部にはそのような会議がない中で、子ども・若者支援をやっているかどうか問われるのですが、子ども・子育て会議がせっかくあるのに、こちらで別に作ってもしようがないと思うところです。そこにむしろ手を伸ばしていくべきなのではないのかなと考えています。その若者の定義がなんと40歳までなんです。ということは、もうほとんど大人というか、いやどこまで広げてるのという感じで、なぜそこを若者と考える必要があるのかなと思ったのですが、やはりその年齢からきているのかなと思います。しかし、どこかで線を引かなければいけないと思っています。これは子どもの問題でも若者の問題でもなくて、それぞれに例えば壮年期で仕事に熱中するような人の問題でもなく、老人の問題でもなく、ずっと連々と続く人間の問題なんではないかとやはり思います。人生100歳というの

は、そういうことだと思います。人生 100 歳時代という先ほどご報告ありましたが、その中にもありましたように、その鍵は、子どもが誰でも勉強できる環境というのがその鍵だというのがやはりそのような意味なんじゃないかなと考えています。そこらへんでしっくりくるなという感じはありました。切れ目のない家庭教育支援と書いてありますけれども、本音はそうです。だから市民ボランティア側もやってる側も成長する側ですよというところが随所に入っているかと思われます。

次に 5 番「家庭教育支援チーム」とあります。これは、新年度に向けて補助金をもらうために採用した、この家庭教育支援チームというメニューが文科省であるんですね。その内容をここに入れさせていただきました。今後やることについてのまとめのような方向で書いてあります。こういうことも読書活動の推進としては活用してまいりますということで、全体を通じて、切れ目のない読書活動推進について富津市はこう考えておりますよという計画になったのではないかと思います。以上です。

(議長)
高橋委員長

ただ今、事務局から丁寧な富津市子どもの読書活動推進計画の案につきまして、説明がありました。2月2日の臨時会でみなさんの意見等が更に反映されたものとなっているようですが、ご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

杉田副委員長

すみません。教えていただきたいのですが、16 ページの①の1 番最後の行に図書環境指導員・読書指導員の配置というよう

	<p>な言葉が使われていますけれども、私今まで図書補助員のような言葉は聞いたことありますけど、役割としては大きな違いだけでも結構ですけど、ほぼほぼ一緒でしょうか。この言葉はあまり聞いたことがなかったので、唐突に伺ってしまい申し訳ないんですけども。</p>
<p>(事務局) 伊藤課長補佐</p>	<p>これは、多分このように書かれているので図書環境指導員は、図書の図書室の環境だとか、先ほどありましたとおり図書室が遠いからそこじゃだめだからとか玄関ぐらいに本棚を持って行ってそこに置きなさいとか、各教室にあった方がいいんじゃないのとか、そういうことを指導していく役割じゃないかなと思います。読書指導員というのは、読書そのものについての指導じゃないかと思っております。</p>
<p>(議長) 高橋委員長</p>	<p>よろしいですか。わかりましたか。</p>
<p>杉田副委員長</p>	<p>わかりませんが、再度相談を伊藤課長補佐にしながら調べさせていただきます。</p>
<p>(議長) 高橋委員長</p>	<p>わかりました。</p>
<p>杉田副委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p>

<p>(議長) 高橋委員長</p>	<p>他にございますでしょうか。</p>
<p>石井委員</p>	<p>はい。</p>
<p>(議長) 高橋委員長</p>	<p>はい。石井委員。</p>
<p>石井委員</p>	<p>2月の臨時会議を経て、この推進計画を形にするまで、本当に事務局の伊藤課長補佐を中心としたみなさまには本当にご尽力いただいて、中身の濃いものにだんだんなってきたのではないかと感じました。やはり岡根教育長がおっしゃったように、読書によって子どもを育てるといようなことを背景にしたりとか、現代的な課題等富津市の実態を直視した中で現在でやれることは何か、現在のものをどうやって工夫していけば富津市としてのスタイルでこの子どもの読書活動推進計画が出ていくんだということが網羅され、この項立ても2月の時よりもはるかにぐっと編集された中で細かく具体的なものが読み取れるなというふうに拝見しました。特に、子どもの読書活動推進計画の取組の中の3本の柱の3つめの部分ですね。子どもがより多く本を読むための環境整備という言葉もこれは選りながら書かれたと思うんですけども、特に18ページですね。前回は家庭の役割というような項立てをしていたんですけども。これをあえて連携と支援という形に括った中で、ボランティアとか読</p>

	<p>み聞かせの効用の周知とか、それから前回にも話にありましたけれども、ブックスタートをさせて、就学するまでのその間の部分をどう乳幼児に支援していくのかというあたりを切れ目のない家庭教育支援というような形で表記されているので、やはり前回の会議の中身が活かされているなというように思いました。</p> <p>それから、全体として実現可能なのか、実現に向けて取り組みやすいものがたくさん盛り込まれていますので、何年後かの水準目標に届くために、また自分なども微力ながらご協力できるところはご協力させていただいて、この計画が実施できるように自分も応援できる部分はさせていただきたいなと思いました。お疲れさまでした。ありがとうございました。</p>
<p>(議長) 高橋委員長</p>	<p>ありがとうございます。他に異議や質問はございますでしょうか。</p> <p>こちらから指名して申し訳ないのですが、鹿島委員はいかがでしょう。</p>
<p>鹿島委員</p>	<p>はい。広範囲にわたっているので、素晴らしい計画になっていると思います。先ほど少し話題になっていた学校の方での司書教諭の配置ということで入っていましたけれども、実際には12学級以上で必ず置かなければいけないということは決まっているんですけれども、そういう学校は小学校1校と中学校1校しかない状況です。ただ、実際にはもっと小規模な学校でも</p>

	<p>司書教諭はいる学校が大変多いです。実際にはいます。ただ、その司書教諭が図書室の経営に専任できるわけではないので、そこが難しいところではあるんですけども、小中学校市内各学校とも読書については、教育委員会の援助もありできるだけ進めようというところで熱心に活動しておりますので、その大変援護射撃になるというか、助けになる計画ではないかと思えます。ありがとうございます。</p>
<p>(議長) 高橋委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>鹿島委員から学校の事情について説明してもらいましたので、大体これで意見はないのかなと思うのですが、特になければ決をとろうと思えます。</p> <p>それでは、計画案についてお諮りします。事務局から説明のありました、「富津市子どもの読書活動推進計画」の案につきまして、この内容で教育委員会に提案することとしてよろしいでしょうか。賛成の委員の挙手をお願いします。</p>
	<p>(全員挙手)</p> <p>はい。挙手多数となります。それでは、この計画案を教育委員会に提出していただき、策定するという方向で事務局に委ねたいと思えます。よろしくをお願いします。</p>
<p>各委員</p>	<p>よろしくをお願いします。</p>

<p>(議長) 高橋委員長</p>	<p>では、次に6 その他に移ります。今後の活動についてとありますが、事務局いかがでしょうか</p>
<p>(事務局) 伊藤課長補佐</p>	<p>はい。</p>
<p>(議長) 高橋委員長</p>	<p>はい。お願いします。</p>
<p>(事務局) 伊藤課長補佐</p>	<p>次第の最初に書いてあります生涯学習施策についての検討というのは、今年度の第1回目の会議の時にみなさんにお諮りしてご承認いただきました、今までありました生涯学習推進計画というのを富津市教育施策の中に盛り込む形で発展的に統合するといったことをご承認いただいたと思うんですけども、これについて来年度は深めていきたいということをここで申し上げておきたいということです。</p> <p>そしてもう1つですね。社会教育施設の検討ということがあります。実はこちらの方が急を要することとなってまいりました。富津市公共施設等総合管理計画という表紙があります。これはすごく長いものですが、抜粋してございます。この後半は途中から富津市公共施設白書というもので、これは平成29年度更新版になります。こちらも抜粋しているものとなります。平成28年3月に施行された管理計画によりますと2ページに図がありますけれども、国のインフラ長寿命化基本計画という基</p>

本計画に基づいて、地方自治体がやるべきこととして管理計画がありますよということが載っています。その管理計画の下に個別施設計画（公共施設）というのがあります。ここについて、個別施設計画とは何かというと例えば、白書の3ページをめくっていただいでよろしいでしょうか。3 公共施設等の保有状況と書いてある表です。よろしいでしょうか。（1）公共施設と書いてあるものを大分類と中分類に分かれていますけれども、それぞれ1番上から市民文化系施設の右にいきますと集会施設のコミュニティセンター、集会所、文化施設の公民館、市民会館とあります。次に社会教育系施設の博物館等、その次にスポーツ・レクリエーション施設の中にスポーツ施設があります。教育委員会の中で私たちが使っている社会教育施設という言葉がありますけれども、それは中分類による文化施設と博物館等とスポーツ施設の3つです。文化施設の中に公民館と入っています。それから博物館というのは当市にはこれも図書館と同じようにはありませんけれども、駅前にある古墳の里ふれあい館ですとか埋立記念館、収蔵庫なども含めています。そしてスポーツ施設、体育館とかですね。こういう社会教育施設についてのあり方、例えば近隣の市ですと社会教育施設あり方検討会というものがあり、どんな施設が自分の市にとって必要なのかということを検討していく場が設けられており、そのような検討が必要です。その検討に基づいて富津市は、今現有している施設とかなないものについて、どのようにしていけばいいのかということ計画にまでもっていかなければいけないわけですね。それ

が、個別計画というものです。その個別計画について、これは作れということではないのですが、作らなければいけないのかなとむしろ考えている状況がございまして、先ほど申しましたとおり 2020 年をもって閉校がたくさん出てきてしまう。そうするとそれは市の財産ですから、その先の活用について市民の方ですとか市の方針とか検討を重ねていながら、例えば 1 番あり得るのはうまく使ってくれるところに売却するということですが、市としては第 1 の方針としてあり得る方向だと考えています。その根拠は、やはり管理計画でございまして管理計画の 16 ページをご覧くださいよろしいでしょうか。ここに基本的な方針が書かれています。2 の基本方針の中の (1) 公共施設 ア 原則として新規施設は建設しません。ただし、政策上、新規施設を建設する場合は、既存施設の廃止を進めることで、施設の保有総量の抑制を図ります。このどれだけ減らすのかの目標について、健全な経営のためには総延べ床面積の 3 分の 1 といった数字がございまして。少なくとも半分には減らさないといけないというような見方がございました。そうすると例えば 3 校閉校になるから 1 つは改修をして複合的な施設を作ってもいいのではないかと、例えば教育部にしてみればですね。といった提案が逆にそのタイミングしか出せないんじゃないかというところなんです。そして、これができて例えばこの中学校で、この小学校でこんな施設を作っていきましょうっていうようなところをこちらから提案していくことがこれから社会教育施設を健全に保有できる、市民活動に供することのできる唯一と言っても

いいような可能性なんじゃないかと考えています。新しい施設は作らない方針ですからね。そういうことで、それはいつなのかというところでは、2020年度に閉校ということは、それに向けて予算化しなければいけない、予算を取るためには夏には手を挙げなければいけない。手を挙げて、秋には予算の要求を作らなければいけない。そういうスケジュールなんですね。前年度の秋くらいには要求しなければいけないから、そのための計画をそれ以前に用意しなければいけないというスケジュール感です。非常にタイトなスケジュールで、もう何年も調査かけているわけにはいかないんですが、幸いなことに管理計画ですか施設白書というものでこれだけ詳細は調べているので、どれだけ詳細なものかというところと最後の数ページ見ていただいて、古墳の里ふれあい館と埋立記念館の例を持ってまいりましたけれども、このようなデータが全ての市内の施設において作ってあります。これを基にこういうものを材料にして、私たちは社会教育施設のあり方の中にこういったものを盛り込んで、じゃあこういったものをどのような活用していきましようかというところまで提案できればいいのではないかと。そうすると今、子どもの読書活動推進計画でもありましたとおりここで立案するということは、それを教育委員会に案として提出して教育委員会で採択されるということでしたり、教育委員会に提言したりとかここはそういう立場の会議ですから、場合によっては教育委員会、教育長から社会教育委員会議にこのようことを調査してくださいと諮問され、その諮問に対する答申という形も取れ

	<p>ます。いずれにせよ、教育委員会が例えばこういう施設のためにこの学校を解放しますよというための1つの根拠として、みなさんの協議した内容が必要になってくるのではないかと思われれます。これは、次回の新年度早々の会議ですし場合によっては、臨時会議を開いてその2つの場で決めないといけないスケジュール感でございますので、みなさま方の日ごろからの考察というか、ご意見をいただきたいと思ひます。この会議の席上でなくても結構ですので、本当に係員みな待っておりますのでよろしくお願ひいたします。</p>
<p>(議長) 高橋委員長</p>	<p>はい。ただ今、事務局から説明がございました。</p> <p>来年度は新たに生涯学習・社会教育関係の施策と施設について検討していく、ということですが、委員の皆さんは何かご意見等ございますでしょうか。</p>
<p>斎藤委員</p>	<p>お聞きしたいことがあるのですが。</p>
<p>(議長) 高橋委員長</p>	<p>はい。斎藤委員。</p>
<p>斎藤委員</p>	<p>座って失礼します。今、事務局の伊藤課長補佐より説明がありましたけれども、この施設等の総合管理計画なんですけど、今、伊藤課長補佐が話した中で結局話を聞いていると、地元の人たちの意味合いを先取りしている感じになっちゃうので、例</p>

例えば私どもは再配置計画の一員として、今までずっとやってきております。そして、いまでもまだ閉校に向けてやっております。この話を聞いちゃうと、なんとか早く地元でも何かを起こしてあげなきゃいけないじゃないかという問題になってきちゃいますので、これはやはり、この場において言ってほしくなかった。再配置計画の問題はまだ終わっていませんので、閉校になってからこのような話が出てくるのであればいいのですが、まだやってる最中でこの話をされてしまうと、この話が分かった時点で地元が先に何かを、例えばそこでもって閉校した建物を使い何かやろうという計画を持ち出した時に、それが今の教育委員会の方から出たものと合致した時にどうするのか。建物自体がね。であれば、市や教育委員会の方が上だからそちらの案を採用しようということになると今度は地元の人言うことを聞かなくなる。これは正直言いまして非常に難しい問題なんですよ。だからただ単にここでもって発表してほしくなかったというのが1つあるんです。というのはみなさんもう知っちゃいましたから。これは、抜粋したものだと思っんですよ。それを基にこういうことをしたいと、こういうふうに向けて行いたいと教育委員会の中で話が出ちゃってますから本来であれば我々がまだやっている最中の中でもって、今後この跡地をどのようにしようかとそこまで進んでおりませんので、閉校に追われているだけであって、このようなことを言われてしまうと地元に戻って実はこの16日に私ども閉校式典の会議を行いますけれども、そういう中でもって市からこのような話があ

	<p>ったんだけどどうしようかとなっちゃうんですよ。結局市内の中で5校閉校になるんですけれども、やはり地元希望が出てくると思うんですよ。</p>
<p>(事務局) 笹生部長</p>	<p>はい。委員長。</p>
<p>(議長) 高橋委員長</p>	<p>はい。笹生部長。</p>
<p>(事務局) 笹生部長</p>	<p>ただ今の担当の説明が不足しているんですけれども、あくまでも公共施設全体というのは市の方でまさに斎藤委員がおっしゃったように地域の方の意見を聞きながら決定をいたします。それはもう大前提です。そして、伊藤課長補佐が今言ったのはこことか特定の学校ではなく、こういうものが必要であったら閉校する学校の中の一部で使えるんじゃないかというところを教育委員会内部として考えておくということです。斎藤委員が言ったこの学校のこの部分をなどという限定は今のところできない状態です。それは、先ほど斎藤委員がおっしゃったとおり、全体的なものはこの4月1日以降は総務部の方で全体的な市民の意見を聞いて、活用方針を決めていくというのがスタートでございます。</p>
<p>斎藤委員</p>	<p>そうですね。</p>

<p>(事務局) 笹生部長</p>	<p>個別にこの学校をどうこうするという話ではなく、ちょっと留めておいていただきたいと思います。すみません。申し訳ありません。</p>
<p>斎藤委員</p>	<p>はい。ありがとうございます。</p>
<p>(議長) 高橋委員長</p>	<p>斎藤委員、よろしいですか。</p>
<p>斎藤委員</p>	<p>はい。</p>
<p>(議長) 高橋委員長</p>	<p>今、部長からお話があったような形で進めるということで伊藤さんは説明したいようですけれども、来年度は市の総務部の動きとは少し違うでしょうけれども、全体的な社会教育施設をどう対応していきたいかということの総体的なことを決めたいということですよ。</p>
<p>(事務局) 笹生部長</p>	<p>ちょっと分かりにくくて説明が足りなくて申し訳なかったんですけれども、内部的に必要なものがこの中から捻出できるかなというのを考えていくということが必要かなと思います。</p>
<p>斎藤委員</p>	<p>やりたいというのはよく分かるんですよ。ただ、分かるんだけれども閉校するにあたってどこの建物になるかは分からないけれども、そうしたいんだという話だったので少し待ってく</p>

	<p>ださいという形だったんです。</p>
<p>(議長) 高橋委員長</p>	<p>はい。わかりました。ありがとうございました。</p> <p>関連して何かありますか。</p> <p>他に意見がないようですけれども、報告事項は以上でござい ますか。その他についてみなさま何かございますでしょうか。</p>
<p>(事務局) 當眞課長</p>	<p>事務局は特にありません。</p>
<p>(議長) 高橋委員長</p>	<p>委員のみなさんからはどうでしょうか。</p> <p>ないようですので、以上をもちまして本日の議題を全て終了 いたしますが、よろしいでしょうか。</p>
<p>各委員</p>	<p>はい。</p>
<p>高橋委員長</p>	<p>議長の任を解かせていただきます。委員のみなさまのご協力 に感謝いたします。</p> <p>では、事務局にお返しします。</p>
<p>(事務局) 當眞課長</p>	<p>長時間にわたり、ご審議いただきありがとうございました。</p> <p>先ほど、「富津市子ども読書活動推進計画」につきましては、 みなさまのご承認を得ましたので、これをもって教育委員会に かけていきたいと思えます。</p>

思えばですね、お亡くなりになりました小泉元委員長がよくおっしゃっていました。この社会教育委員会議の中で、答申とかできないかねというふうに常々私の方におっしゃっておいりました。そういったことをですね、初めて社会教育委員会議で建議・立案という形でできたというのは、この社会教育委員会議の中ですごい画期的な出来事だなと私は思っています。

みなさん3年間にわたり、慎重にご審議いただきましたこの想いをですね。これがスタートラインですので、これを身になるように進めていきたいと思っておりますので、さらにまたご協力願いたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは以上をもちまして、平成30年度第2回富津市社会教育委員会議を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。